

— 今月の投書 —

子育て世代に冷たい日本の社会

ベビーカーを否定する会社員

皆さんが社会に無関心になっていくのは十分に分かっています。しかし最近目に付く非常識な出来事で放置できないのが「ベビーカーを否定する会社員」です。

先日、仕事に向かうため最寄りの山手線品川駅のホームで電



車を待つていた時のことです。

ベビーカーに子どもを乗せた若い母親が、到着した電車に乗り込もうとしたところ、さも迷惑そうな顔をした会社員が数名いました。もちろん、自分のスペースを空けるつもりはありません。時間は朝の9時半を過ぎたところで、通勤ラッシュはひと段落したとはいえ、車内は混雑していました。一人一人がほんの数歩移動してあげれば、ベビーカーは何の問題もなくスムーズに乗車出来る状況です。

公共交通機関でのベビーカー利用に対し、否定的な感情を抱く人がいることは事実です。その心理的背景には、混雑した空間での不安や焦り、利便性の喪

共働き等世帯数の年次推移



出典：厚生労働省

参照
<https://www.mlit.go.jp/common/001014270.pdf>
<https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/21/dl/2-01.pdf>

失への懸念があると考えられます。混雑時のベビーカー利用によって通路が狭くなり、通行や移動が制限されることにストレスを感じる人が少なくありません。

しかし、2021年の厚生労働省白書では1247万の世帯が共働きとの結果が報告されています。子どもを授ければ、夫婦二人で育児するのが当たり前。当然、公共交通機関を利用する機会も増えるでしょう。国土交通省の調査では、公共交通機関におけるベビーカーの乗車

数は全乗降客の1〜2%、車いす利用者の約20倍と年々増加傾向にあります。

00年には119万人であった出生数は23年では73万人と約38.6%の減少、合計特殊出生率も00年の1.33から23年には1.20と0.13ポイントの低下と下がる一方。もう少しベビーカーに優しくしてもいいのではないのでしょうか。もっと子どもを育てやすい世の中にしませんか。あなたが背負った黒い大きなリュックの方が迷惑ではないですか。